

令和元年度埼玉県オハイオ州スカラシップ

語学・大学留学コース 1月レポート

土屋 菜月

最近雪の降る日が続き、そろそろ本格的にオハイオの冬がやってきそうです。今月のレポートでは、Martin Luther King Jr. Day(マーティン・ルーサー・キング牧師の日)、新年会、Lunar New Year(旧正月)について紹介したいと思います。

マーティン・ルーサー・キング牧師の日

1月の第3月曜日は公民権運動の先駆的なリーダーのひとり、マーティン・ルーサー・キングを称える祝日です。彼はマハトマ・ガンディの教え、非暴力的な抗議の持つ力を信じ、人種差別に対する非暴力闘争を推進するために南部キリスト教指導者会議を設立しました。1963年8月に“I have a dream”を含む演説を行い、人種差別撤廃と各人種の共和を主張しアメリカだけでなく世界的にも評価されました。アメリカではこの日は、追悼式や式典が行われます。

フィンドレーでは、彼を称え、それらの問題へもう一度目を向けるための community walk(地域の方々が集まり行進します)と式典が行われ、私も参加しました。その日は雨だったにもかかわらず、Community walkでは子どもから年配の方まで40人近くの人々が集まりました。大学では、神学を研究していた Daniel Hill さんという方をお招きし演説が行われました。演説の内容は、人種差別(特に黒人と白人)は神ではなく人間によって作り出されたものであり、それを撤廃することができるのも神ではなく人間である、人種差別を撤廃するために白人が立ち上がり向き合い、変えていく必要がある、というものでした。ここの大学はキリスト教なので宗教が関わってくることが多いです。公民権法が成立し人種差別を禁ずる法律ができて、57年たっても、黒人が大統領になっても、実際に今も人種差別は残っています。アメリカに来て、このことはとても衝撃的でした。ホームレスの数も圧倒的に黒人が多かったり、授業で人種差別について話し合う機会があったときには黒人の生徒はみんな口をそろえて不満を持っていると答えました。「最も力を持っているのは白人男性」と、これに対しては大半のクラスメイトが賛成していました。「アメリカはダイバーシティではなくて、ただ同じ国に“住んでいる”だけ」というあるひとりのクラスメイトの言葉はとても衝撃的でした。

ところで、日本に人種差別はあるのでしょうか。私は最初、日本は島国だしアメリカのように人種の違いも多くはないから大きな差別はないだろうと思っていました。しかし、調べてみると気づいていないだけで日本にも人種差別はたくさんありました。例えば、ハーフや外国人などの見た目が日本人ではない人に対して。外見が違うという理由で学校でいじめられたり、大人になっても「外国人」というレッテルを貼られ非暴力的差別を受けているという記事を見つけました。このように日本にも向き合っていくべき人種差別の問題があります。興味があれば是非下の記事を読んでみてください。

下地ローレンス吉孝「『日本人』とは何か?『ハーフ』たちの目に映る日本社会と人種差別の実際」

<https://www.refugee.or.jp/fukuzatsu/lawrenceyoshitakashimoji01>

バイエ・マクニール「日本人が知らずにしている人種差別の『正体』-シャイという言葉に隠れた恐れ-」

<https://toyokeizai.net/articles/-/225393?page=2>



Community walk



フィンドレー市での MLK セレモニー

新年会

1月26日に日本人留学生と川村先生主催の新年会がありました。日本語専攻の学生や友達を招待し、書き初めや、お餅を作ってみんなで食べました。お餅は意外にも好評で完食しました。



Lunar New Year (旧正月)

旧正月とは、旧暦におけるお正月（1月1日）のことで、日本ではほとんど風習は残っていませんが、中国、ベトナム、香港、台湾、韓国、モンゴルなどではお正月を祝うための行事が行われます。その日は中国とベトナム出身の友達が家に招待してくれて、それぞれの国の伝統的な料理を振る舞ってくれました。

